

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2022年度 最優秀校
富士見町立富士見中学校

「科学が好き」＝「のめり込める」子どもとし、子どもが「のめりこむ」状態になった時の姿を考えて研究構想を構成されています。特に(事例1)問題意識をつなぐイオンの学びでは、かなり挑戦的な実践提案をし、(事例2)富士見中の地下はどうなっているの?についても、大まかなイメージをというのではなく、専門的な内容にも触れつつ取り組まれております。教科書の枠組みにとらわれない革新的な内容になっています。

授業も単元構成で「文脈をつくる」ことを追究し、問題解決的な学習の展開を目指されており、子どもの主体性を重視しています。そして子どもがそれに反応して、自由で豊かな発想で活動しているところが高く評価されました。

また、貴校が開校以来、全校で行っている「一人一研究」は、地域人材講師との連携やICT機器の活用したコミュニケーションなどで安易な内容にならないようにし、学校が一体となって生徒の課題作りに取り組んでいます。その結果、多彩で質の高い「一人一研究」が実現し、生徒の主体性が涵養されているところが評価されました。

計画については、「文脈のある学び」を堅持されつつ、教科連携を図るための合同研究チームを立ち上げること、生徒が話し合いの進行役を務める学習展開などを立てておられます。これまで追究されてきたことをさらに発展させられることに、その成果を期待しております。